



庚申(こうしん・かのえさる)碑・庚申塔について

庚申とは、甲子(きのえね)から始まり60番目の癸亥(みずのとい)までの「十干十二支」の組合せのうち57番目に巡ってくる干支のことで、庚申の日というのは、平安時代に中国から伝来した「庚申信仰」からきているそうです。

人の体内には「上戸(じょうし)、人の頭の中に潜み、首から上の病気を引き起こす虫」、「中戸(ちゅうし)、人の腹の中に潜み、臓器の病気を引き起こす虫」、「下戸(げし)、人の足の中に潜み、腰から上の病気を引き起こす虫」の三戸(さんし)という三匹の虫が潜んでいると考えられていました。

この三戸は人が死ねば自由になれるので、人の寿命を縮めようと常々スキをうかがっていますが、普段は体内から出ることにはできず、庚申の日だけ人が眠っている間に体内から出て行くと考えられていました。

人が眠った後、三戸は天に昇って天帝に人間の悪行を告げ、天帝はその悪行に応じて、その人の寿命を決めていくといわれ、人々は寿命を縮められては大変なので、三戸を食べてしまうとされる青面金剛を祀ったり、庚申の日は集まって夜籠りして身を慎んだといわれています。これを「庚申待」といい、寝ずに神仏に祈りをささげたり、みんなで集まって酒を飲んで夜を明かしたということです。江戸時代になると庚申待を18回繰り返すとその記録として庚申の石碑を建てるようになったということです。



秋保 いってみっぺ

道ばたの神々 湯元～境野編

いってみっぺ 秋保

道ばたの神々 湯元～境野編

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

五穀豊穰や家内安全、無病息災を祈って建てられた石塔や社など、道ばたにある神々を巡り、これを建てた昔の人々の心に触れてみませんか。

掲載されている情報は、平成31年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.24

秋保地区を東西に貫く「二口越え最上街道」は、仙台と山形を結ぶ交易の道であり、山寺を開基した慈覚大師ゆかりの修験の道、出羽三山参りの信仰の道でもあったことから、この街道筋には多くの石塔(道ばたの神々)があります。

昔の人々が生活の不安などから神や仏を信じ、無病息災や家内安全、五穀豊穰を祈り、全国の霊験あらたかな神寺を、講をつくって代参して勧請したり、或いは諸国を巡る修験者の教を受けて辻々に建立したもの、また辻々の石塔には道しるべとして「道の神」としての役目を併せ持つものもあります。



道ばたの神々 (湯元～境野編)



4 橋本の石塔群
秋保街道(二口街道)から容易に見ることのできる石塔群です。かつてはこのあたりが古道の辻だったものとおもわれます。
古峯神社、馬頭観世音、八幡大神、天照皇大神宮、春日明神、月山湯殿山羽黒山、金毘羅大神、山神、小牛田山神などの石塔十基が並んでいます。隣家の人々の手入れが行き届き、四季折々に山里の美しい景観を醸し出しています。



1 村境の馬頭観世音
東生出村・西秋保村と刻まれた村境石柱の隣に、文政二年の年号と頭部に梵字が刻まれた馬頭観世音があります。馬頭観世音は宝冠に馬頭を戴く憤怒の相をした、顔が三つで腕が八本の観音様で、旅と馬の守護神として信仰されたまっています。
秋保地区では一般的に言う塞の神としての「道祖神」が確認できないことから、馬頭観音が防障・防塞の神行路の神として習合し、村中組中で村境や辻・橋のたもと等に建てられたものと思います。



2 観橋の西袂の石塔群
湯元の交通の要所だった観橋、そのたもとには大小15基の石塔があります。観橋の架け替えを含む道路改修に伴ってこのあたりに移されたものです。
金華山・大神宮・山神・馬頭観世音・南無阿彌陀仏・申碑・小牛田山神・子安観世音・萬霊などが刻まれています。その中の「庚申供養塔」の下部には、右八二口道左八湯道」とあり、街道の辻にあったものですね。
古より温泉を訪れる人々を見守りつつ、湯元地区の先人たちの願いや祈りを受け止め、磊々峡の景色に静かに同化しています。祀られている神々を知るほどに、庶民の暮らしが身近に感じられる所です。



11 西沢の小牛田山神
二口街道の七森から北側に分岐し、西沢に向かう橋を渡った三叉路の正面に建っています。石塔には、右愛子行一里半、左西澤ヲ經テ定義ニ至ル約四里と刻まれています。
小牛田山神は子授け・安産・子育てを祈願して建立された石塔で、木花佐久夜比賣命を祭神とする現美里町の山神社を祀ったものです。
現在は形を変えています。集落のお嫁さんたちが集まり、小牛田講を継承しています。



10 上戸の辻
長袋へと通ずる旧二口街道から境野館方面へと分かれる辻で、馬頭観音、山神、古峯神社と萬延二年の石塔四基があります。
山神は、春に山から里におりて田の神となり、秋の収穫が終わるとまた山に帰り山の神となるといわれています。
かつて秋保郷では、春と秋に山神を奉る山の神講の行事が集落ごとに行われ、集落や里山の入口にあたる所に山神碑や祠が祀られています。



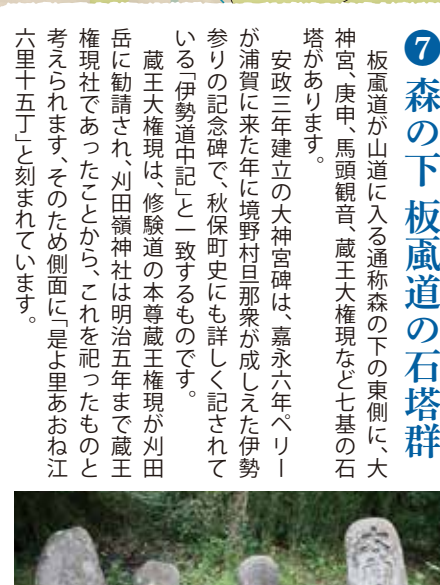
9 桜町の辻
旧二口街道と板風道、川崎へと通じる道が十字路で結ばれる交通の要衝だった通称「桜町」。秋葉山大権現、湯殿山大権現、子安観音像、馬頭観世音、一宮塩竈大明神、金毘羅大権現、金華山、小牛田山神など、江戸時代中頃～大正時代まで大小16基の石塔が立っています。
一番古い六字名号碑「南無阿彌陀仏」は、極楽往生を祈り死後の安楽を願って建立された石塔で、下部に「右八二口道」と刻まれており、道しるべとしての役割も兼ねていたようです。



8 旧板風道沿いの「貞享年間の万歳碑」
大阪の夏の陣凱旋萬歳碑と云われる石塔です。
石塔の三面に刻まれた碑文は摩滅して読取れない部分が多いですが、大阪の陣から七十一年後の貞享三年に、仙台藩士境野家の家臣だった人々が庚申供養に集まり、健康と幸福を祈念して、板風道路傍に建立したものと解されます。



7 森の下板風道の石塔群
板風道が山道に入る通称森の下の東側に、大神宮、庚申、馬頭観音、蔵王大権現など七基の石塔があります。
安政三年建立の大神宮碑は、嘉永六年ペリールが浦賀に来た年に境野村旦那衆が成した伊勢参りの記念碑で、秋保町史にも詳しく記されている「伊勢道中記」と一致するものです。
蔵王大権現は、修験道の本尊蔵王権現が刈田岳に勧請され、刈田嶺神社は明治五年まで蔵王権現社であったことから、これを祀ったものと考えられます。そのため側面に「是よりあおね江六里十五丁」と刻まれています。



3 細野原の馬頭観世音
この石塔は道の神としての意味を持つ馬頭観音と考えられます。道しるべには、路標と案内者の二つの意味があるといわれています。
細野原は、二口越え最上街道から安達を通り笹谷街道へ抜ける古道の辻で、二基の馬頭観世音があり、文久四年の年号のある石塔には、「北八二口道・東八ゆもと道・南八こまつくら道」と刻まれています。



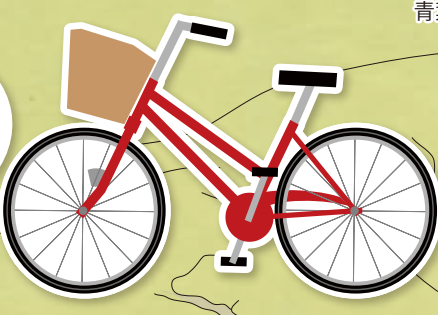
5 境野野尻 神ヶ根温泉入口の石塔
二口街道から羽山への分かれ道の傍りに青麻三光宮、子安観世音と四角柱の三面に「水神・仙人大権現・牛頭天王」と刻まれた石塔があります。
仙人大権現は名取川対岸の羽山(大倉山)に関わるものと思われ、蘇民将来説話の牛頭天王、農業神としての水神が同じ石柱に刻まれた珍しい石塔です。
青麻三光宮は、中風病の予防や治療を願って、岩切の青麻岩戸三光宮を祀ったもの。
子安観世音は、別名子育て観音、慈母観音とも呼ばれ、妊婦の安産、幼児の無事成長を守護する観世音菩薩を祀ったものです。



6 境野野尻板風道分かれ 金剛山碑
二口越え最上街道から板風道への分岐点に「金剛山、馬頭観音」がひっそりと建っています。
この金剛山碑には、「右八二口道左八ゆ元道」と刻まれており、元は道の反対側にあったものです。
これは、栃木の金剛権現を祀ったもので、明治初年の神仏分離令により古峯神社となった、火防・盗難除けの古峯信仰の石塔です。



自転車での周遊がおすすめ!



周遊約15km
徒歩 ← 周遊約3時間
自転車 ← 周遊約1時間30分

